



TITLE:

飛鳥井雅道教授略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

飛鳥井雅道教授略歴・著作目録. 人文學報 1998, 81: 173-181

ISSUE DATE:

1998-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/48524>

RIGHT:

飛鳥井雅道教授 略歴・著作目録

I 略 歴

年 月 日	
1934・11・26	東京市渋谷区原宿二丁目に生まれる。
1950・3	京都師範学校付属京都中学校卒業
1953・3	京都府立朱雀高等学校卒業
1953・4	京都大学文学部入学
1957・3	京都大学文学部文学科（仏語仏文学専攻）卒業
1957・4	京都大学大学院文学研究科修士課程（仏語仏文学専攻）入学
1958・3	同課程中退
1958・3	京都大学助手（人文科学研究所日本部）に採用される。
1970・5	京都大学助教授（人文科学研究所）
1971・4～	京都大学大学院文学研究科授業担当（－1990・3） （担当科目・現代史、国語国文学など年度によって変更あり）
1981・4	京都大学教授（人文科学研究所）
1987・4～	国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員（－1990・3）
1987・10～	国立国際日本文化研究センター運営協議員（－1991・9）
1998・3	京都大学人文科学研究所停年退職

II 著 作 目 録

A 著・編書

書 名	発 行 所	発行年月
1 日本の近代文学	三一書房	1961・3
2 幸徳秋水	中央公論社	1969・5
3 大正デモクラシー（江口圭一・今井清一他と共著）	学生社	1969・6
4 近代文化と社会主義	晶文社	1970・10
5 大杉栄・自叙伝／日本脱出記	岩波書店	1971・1
6 日本社会主義運動史論（渡部徹と共編）（京都大学人文科学研究所研究報告）	三一書房	1973・8
7 日本近代の出版	塙書房	1973・9
8 坂本龍馬	平凡社	1975・10
	（復刊、福武文庫版、福武書店、1992・3）	
9 幸徳秋水集（編・解説）	筑摩書房	1975・11
10 近代の潮流	講談社	1976・8
11 鷗外 その青春	角川書店	1976・12

人 文 学 報

12	近代文学の成立期（『シンポジウム日本の文学12』越智治雄ほかと共著）	学生社	1977・11
13	西郷隆盛	平凡社	1978・4
14	九州（原田伴彦と共著）	筑摩書房	1978・5
15	世界伝記大辞典（日本・朝鮮・中国編、桑原武夫ほかと共編）	ほるぷ出版	1978・7
16	近世 京都（原田伴彦ほかと共著）	朝日新聞社	1978・7
17	新修大津市史 1～10（林屋辰三郎・森谷尅久と共編）	大津市	1978-88
18	史料体系・日本の歴史 七 近代	大阪書籍	1979・1
19	中央道	筑摩書房	1980・6
20	史料体系・日本の歴史 八 現代	大阪書籍	1981・5
21	図説日本文化の歴史 11 明治（編）	小学館	1981・5
22	日本プロレタリア文学史論	八木書店	1982・11
23	文明開化	岩波書店	1984・5
24	国民文化の形成（編、人文科学研究所研究報告）	筑摩書房	1984・6
25	明治大帝	筑摩書房	1989・1
	（改版、ちくま学芸文庫版、筑摩書房、1994・1）		
26	天皇と近代日本精神史	三一書房	1989・7
27	猪名川町史 3 近現代（編）	兵庫県猪名川町	1990・6
28	（翻訳）F・G・ノートヘルファー『アメリカのサムライ』	法政大学出版局	1991・3
29	鹿鳴館	岩波書店	1992・7
30	注釈・漂荒紀事（齋藤希史と共編、人文科学研究所研究報告）	京都大学人文科学研究所	1996・4
31	大杉栄評論集（編）	岩波書店	1996・8
32	京都市姓氏歴史人物大辞典（朝尾直弘ほかと共編）	角川書店	1997・9
33	中江兆民（近刊）	吉川弘文館	1998・

著書の内、4『近代文化と社会主義』、7『日本近代の出発』、22『日本プロレタリア文学史論』、26『天皇と近代日本精神史』は、論文集である。大幅な改稿、加筆をふくむ場合があるが、基礎となった論文、エッセーの後ろに（4）、（7）、（22）、（26）のごとくに番号を付し、収録した本を示した。

以下、「論文」と「評論、書評、エッセー」は、わたしの思考の仕方から、本来区別できないが、仮に二分したまでである。

B 論 文

	タ イ ト ル	掲載書	発行年月	所収
1	広津柳浪の初期－再評価のための基礎的研究－	人文学報（京都大学）10	1959・3	（7）
2	政治小説と「近代」文学	思想の科学6	1959・6	（7）
3	民友社左派と日清戦争－明治三〇年代社会小説・上	文学27・8	1959・8	（4）
4	社会小説の発展－明治三〇年代社会小説・下	文学27・9	1959・9	（4）
5	賀川豊彦の位置－大正文学の転機として－	歴史評論113	1960・1	
6	エンゲルスとルカーチ批判	新しい歴史学のために58	1960・1	

飛鳥井雅道 略歴・著作目録

7	中江兆民と第一議會	人文学報（京都大学）13	1960・11	（7）
8	自由民権運動とその文学	国文学6・11	1961・8	
9	近代文学における個人（上）	文学30・5	1962・5	（7）
10	近代文学における個人（中）	文学30・6	1962・6	（7）
11	近代文学における個人（下）	文学30・8	1962・8	（7）
12	幸徳秋水－社会主義の悲劇－ （再録、朝日ジャーナル編『日本の思想家2』63・5、『現代日本文学大系22』筑摩書房72・2、朝日ジャーナル編『新版日本の思想家・中』75・9）	朝日ジャーナル62・8・26	1962・8	
13	資料・明治三〇年代民主主義運動の一面・1902－3年各種演説会記録	人文学報（京都大学）17	62・11	
14	国民的文化の形成1	『岩波講座日本歴史18・現代1』	63・1	（4）
15	日本帝国主義思想の成立	日本史研究69	63・11	（4）
16	幸徳秋水・反逆者の肖像	『二〇世紀を動かした人々13』講談社	63・7	
17	啓蒙主義と作家	国文学8・13	63・10	
18	作家同盟の転換期、1931－33年	文学32・1	64・1	（22）
19	スターリン批判と歴史学の方法	現代の理論8	64・9	
20	民権運動と維氏美学－民権運動と啓蒙主義との関係の一側面	人文学報（京都大学）20	64・10	（7）
21	フランス革命とスタンダール 桑原武夫編『ブルジョワ革命の比較研究』筑摩書房		64・12	（7）
22	『明暗』をめぐる－夏目漱石の晩年－	人文学報（京都大学）23	66・2	（4）
23	プロレタリアの文学	成瀬正勝編『昭和文学一四講』右文書院	66・2	
24	中江兆民と維氏美学	桑原武夫編『中江兆民の研究』岩波書店	66・2	（7）
25	閉ざされた解放運動 田中美知太郎編『二〇世紀アジアの展開・思想の歴史12』		66・3	
26	プロレタリア文化運動末期の「政治」と「文化」1・2・3 現代の理論30, 31, 33		66・7, 8, 10	（22）
27	民主主義文学運動	国文学10・13	66・11	
28	ロシア大革命と大杉栄	現代の理論45	67・10	（4）
29	ロシア第一次革命と幸徳秋水	思想520	67・10	（4）
30	漱石における男性と女性（上・下）	文学35・11, 12	67・11, 12	（4）
31	民族主義と社会主義－火野葦平の場合－ 桑原武夫編『文学理論の研究』岩波書店		67・12	（7）
32	自由の歌声	『日本文学の歴史9』角川書店	68・1	
33	明治社会主義の帰結	思想524	68・2	（4）
34	啓蒙主義・民権論・ナショナリズム 古田光ほか編『近代日本社会思想史1』有斐閣		68・11	（7）
35	欧化と国粹	古田光ほか編『近代日本社会思想史1』有斐閣	68・11	（7）
36	日本マルクス主義の思想	『講座マルクス主義 12日本』日本評論社	69・9	
37	中江兆民の文体・序説－『東洋自由新聞』を中心に	人文学報（京都大学）29	70・2	（7）
38	プロレタリア文学運動の時期区分（上）	文学38・2, 38・10	70・10	（22）
39	魯迅把握と日本の文学	新日本文学280	70・11	
40	プロレタリア文学運動の時期区分（中）	文学38・12, 39・3	70・12	（22）
41	政治小説とナショナリズム	解釈と鑑賞36・7	71・6	
42	中江兆民とフランス語	国語通信71・12	71・12	（7）
43	大正期のアナーキズム 高橋幸八郎編『日本近代化の研究』下 東大出版会		72・2	
44	漱石の位置	日本文学21・2	72・2	
45	宮崎滔天と吉野作造	朝日ジャーナル72・3・24	72・3	（26）

人 文 学 報

	(再録, 竹内好・橋川文三編『近代日本と中国』朝日新聞社、74・6)	
46	戦後批評の出発―「近代文学」と「新日本文学」	解釈と鑑賞35・7 72・5
47	日清・日露戦争とナショナリズム	解釈と鑑賞37・10 72・10
48	解説年表、自由・革命・独裁 松田道雄編『ドキュメント現代史1ロシア革命』平凡社	72・10
49	プロレタリア文学運動の時期区分(下)	文学40・2, 40・12 72・12 (22)
50	松本清張の世界―大衆の叙情をたちきもの	
	『講座コミュニケーション4・大衆文化の創造』研究社	73・3
51	歴史の根底から―天皇の世紀―	朝日ジャーナル73・5・11 73・5 (26)
52	篤胤のエネルギー	『日本思想大系第50巻』月報 岩波書店 73・6
53	文化運動における共産主義―1927・8年を中心に―	
	渡部徹・飛鳥井雅道編『日本共産主義運動史論』三一書房	73・8 (22)
54	宣長の感性の成立―キツシタルハ実情ニアラス―	文学41・11 73・11
55	思想史研究における分析的方法―	
	松沢弘陽『日本社会主義の思想』に触発されて 思想598	74・2
56	ある政治小説作者の晩年	『日本近代文学大系第二巻』月報 74・3 (26)
57	近代作家と散文精神―森鷗外の場合を中心に	解釈と鑑賞別冊『現代文学講座3』 75・1
58	啄木の思想の質―革命的情熱と断念の世界	現代詩手帳18・6 75・6 (26)
	(再録, 『現代詩読本14 石川啄木』思潮社 80・4)	
59	固執する精神のドラマ(解説)	『平野謙全集第四巻』新潮社 75・7
60	解説	飛鳥井雅道編『幸徳秋水集』筑摩書房 75・11 (26)
61	「奉還」と「討幕」―坂本龍馬の三つの文書―上	人文学報(京都大学) 41 76・3
62	思考の様式―世界像への試み	林屋辰三郎編『化政文化の研究』岩波書店 76・3
63	皇国と玉―西郷隆盛における天皇制	現代思想4・4 76・4
64	鹿地亘と中国―ナルプと「日本人民反戦同盟」	文学44・4 76・4 (22)
65	大民権家一覧表	日本近代文学館報 76・5
66	社会的自覚とプロレタリア文学	『岩波講座文学7』岩波書店 76・5
67	福沢諭吉	『人物日本の歴史20・新政の演出』小学館 76・5
68	「敬天愛人」と「新政厚德」	『西郷隆盛全集』月報1 大和書房 76・10
69	初期社会主義	『岩波講座日本歴史17・近代4』岩波書店 76・12 (26)
70	THE WEST IN JAPAN'S ENLIGHTENMENT WHEEL EXTENDED7/1	77・1
71	三遊亭円朝と近代	歴史公論 3・1 77・1
72	「開化」における西洋	国際交流 12 77・2
73	社会主義リアリズム論争	三好行雄・竹森天盛編『近代文学5』有斐閣 77・6
74	近代の相克	川崎庸之・奈良本辰也編『日本文化史2』有斐閣 77・9
75	デモクラシー期の文化	山本四郎編『日本史8近代3』有斐閣 77・12
76	Kotoku Shusui: his Socialism and Pacifism 『PACIFISM IN JAPAN』	
	ミネルヴァ書房	78・1
77	篤胤の率直さ	『新修平田篤胤全集別巻15巻』月報 名著出版 78・1
78	明治社会主義者と朝鮮、中国	季刊三千里 13 78・2 (26)
79	内乱期の精神構造	林屋辰三郎編『幕末文化の研究』岩波書店 78・2
80	政治小説の命脈	三好行雄・竹森天雄編『近代文学1』有斐閣 78・3
81	天皇というシンボル	
	『日本人の価値意識の変化に関する歴史的・文化的調査研究』価値意識研究会	78・3

飛鳥井雅道 略歴・著作目録

82	平野謙の登場――一九三〇年代を中心に――	文学46・9	78・9	(22)
83	『防長回天史』の思想	人文学報(京都大学)47	79・3	
84	日本文壇の転換期と一九二八年―漱石、白鳥、ロシア革命―	文学47・9	79・9	(26)
85	再論・幸徳秋水と朝鮮	季刊三千里20	79・11	(26)
86	近代精神の確立過程	林屋辰三郎編『文明開化の研究』岩波書店	79・11	
87	伊藤整と小林多喜二(上)	文学47・12	79・12	(26)
88	第一議会における田中正造	『田中正造全集』18月報 岩波書店	80・2	
89	司馬遼太郎	朝日ジャーナル80・3・25	80・3	(26)
90	戦中における芸術の自立性	『桑原武夫集第一巻』月報 岩波書店	80・4	(26)
91	天心と大観そして谷干城	『岡倉天心全集』月報8 平凡社	81・4	(26)
92	自由民権運動の性格をめぐる――近代国家建設における役割	歴史公論7・9	81・9	(26)
93	露国皇太子遭難	『新修大津市史五巻』大津市	82・7	
94	天皇―前半と後半をつらぬくもの―	現代の理論197	84・1	
95	青年像の転換―「壮士」の終焉と知識人の任務	世界459	84・2	(26)
96	長崎で開眼した仏学の途・中江兆民	歴史と人物14・3	84・3	
97	壮士・志士仁人・主義者―幸徳秋水の精神誌	季刊日本学4	84・4	
98	明治の出发点と天皇制	ちくま 159	84・6	
99	国民の創出―国民文化の形成・序説	飛鳥井雅道編『国民文化の形成』筑摩書房	84・6	
100	宮崎夢柳の幻想―政治小説と近代文学・再論	飛鳥井雅道編『国民文化の形成』筑摩書房	84・6	(26)
101	幕末における大政委任論―天皇の復活過程と「復古」の論理	歴史公論10・10	84・10	
102	天皇 その権威の構造	現代の理論21・10	84・10	
103	民権文学の先見性	日本文学33・1	84・11	
104	「傲慢な爪立ち」と意識化された方法―伊藤整と小林多喜二(下)	文学53・1	85・1	(26)
105	日本近代化論の新展開	世界473	85・4	
106	「毒婦」と「孝子」	文学53・11	85・11	(26)
107	大久保史学の論理性	『大久保利謙歴史著作集第一巻』付録 吉川弘文館	86・2	
108	蘆花の罪と気味わるさ	『蘆花日記』6月報 筑摩書房	86・6	(26)
109	第一回帝国議会の「窮民救助法案」――一八九一年の政府、議会、民衆	高校通信東書	87・1	
110	大阪の宮崎夢柳	彷彿月刊	87・11	(26)
111	天皇「制」をこえる天皇の権威、権力	現代の理論254	88・10	(26)
112	連続か断絶か	朝日ジャーナル臨時増刊89・1・25	89・1	(26)
113	激動の前夜	『猪名川町史第二巻』猪名川町	89・3	
114	平野謙・作家と作品	『昭和文学全集一七・平野謙ほか』小学館	89・6	
115	西郷隆盛は平和主義者だったか	『日本近代史の虚像と実像』大月書店	89・8	
116	多田隊出陣	『猪名川町史第三巻』猪名川町	90・3	
117	近代文化概説	『史料京都の歴史第一巻』平凡社	90・3	
118	「小説」とはなにか	人文学報(京都大学)66	90・3	
119	国家と芸能	『講座日本芸能史6』法政大学出版局	90・5	
120	新劇と新派	『講座日本芸能史6』法政大学出版局	90・5	
121	「機密要言」そして「宮女之事」	「文芸」別冊・天皇制 河出書房新社	90・11	
122	第五議会における天皇の影―呪縛の構造の進行状況	人文学報(京都大学)67	90・12	

人 文 学 報

123	龍馬と陸奥宗光	『坂本龍馬と男の生き方』新人物往来社	92・9
124	「元禄狂」の紅葉	『紅葉全集8』月報 岩波書店	94・5
125	近代天皇像の展開	『岩波講座日本通史17・近代2』岩波書店	94・5
126	テキストとしての神話—本居宣長・上田秋成論争とその周辺	人文学報（京都大学）75	95・3
127	幕末維新の激動	『清水寺史2』法蔵館	96・5
128	征韓論の前提（山室班研究報告に所収）近刊		
129	幕末—皇族の政治的登場—青蓮院宮活躍の背景—（佐々木班研究報告に所収）近刊		

C 評論・書評・エッセー、ほか

1	スタンダードとアラゴン	『学園評論』（第1次）1955年11月号	55・11
2	スタンダードとフランス革命	『学園評論』（第2次）1号	58・4
3	書評・長谷川泉『近代日本文学』	京都新聞58・11・30	58・11
4	井上靖『氷壁』	NHK京都放送局編『文学への招待』創元社	58・12
5	書評・久野収ほか『戦後日本の思想』	京都大学新聞977	59・6
6	書評・橋川文三『日本浪漫派批判序説』	京都大学新聞 60・4・11	60・4
7	政治小説	『近代文学研究必携』 学燈社	61・9
8	菅野スガ、女の手紙、女の日記	婦人民主新聞759 61・9・24	61・9
9	書評・柳田、勝本、狩野編『座談会・明治文学史』	文学29・9	61・9
10	日本文学と世界文学	京都大学新聞 61・11・20	61・11
11	『破戒』の映画と小説と	部落148	62・5
		（再録、『部落問題セミナー』（1）汐文社64・5）	
12	書評・谷沢永一『大正期の文芸評論』	文芸1・3	62・5
13	貸本文化論	新日本文学17・10	62・10
14	大杉栄『自叙伝』	桑原武夫編『日本の名著』中央公論社	62・11
15	山路愛山『明治文学史』	桑原武夫編『日本の名著』中央公論社	62・11
16	北村透谷『徳川氏時代の平民的理想』	桑原武夫編『日本の名著』中央公論社	62・11
17	全電通が生んだ泉大八に思う	全電通京都111	63・1
18	書評・日本史研究会編『講座日本文化史8 大正昭和』	日本史研究65	63・3
19	出発のずれ	新日本文学19・3	64・3
20	異なる思想の協力と交流（日高六郎と対談）	現代の理論2	64・3
21	思想協力の条件とマルクス主義	現代の理論2	64・3
22	我々の置かれた場所	現代時報1	64・6
23	幸徳秋水・近代文化史上の人々21	愛媛新聞64・8・19	64・8
24	革命・読書ノート3（高原宏平、野村修と）	新日本文学19・9	64・9
25	収容所の思想・読書ノート4	新日本文学19・10	64・10
26	階級意識・読書ノート7	新日本文学20・2	65・2
27	大衆・読書ノート8	新日本文学20・3	65・3
28	「記者根性」の原型・幸徳秋水	共同通信社文化部編『日本文化の百年』三一書房	65・6
29	大杉栄	日本8・10 講談社	65・10
30	福田英子	日本8・10 講談社	65・10

飛鳥井雅道 略歴・著作目録

31	青山半蔵の立場と思想	大阪労演 199	65・11
32	翻訳・ドブジンスキー「わたしはキュービスト詩人だ」	いいだ・もも編『現代人の思想 14 反抗的人間』平凡社	67・10
33	一九六七年秋（１）－「反ソ」は反進歩か、ソ連共産党をめぐって	現代の理論4・11	67・11
34	書評・平岡敏夫『北村透谷研究』	日本近代文学7	67・11
35	一九六七年秋（２）	現代の理論5・1	68・1
36	革命論とニヒリズム－いいだ・もも氏への同志的批判	新日本文学23・3	68・9
37	国際主義はどこへ－ゲバラ日記とベ平連そしてチェコ事件	新日本文学23・4	68・10
38	書評・反戦と変革	朝日ジャーナル 69・1・19	69・1
39	小田実－楽天的な闘士（現代の偶像）	朝日ジャーナル 69・3・23	69・3
40	坂本龍馬と脱藩－反逆の系譜 1－	図書	69・7
41	書評・佐伯彰一『内と外からの日本文学』	読売新聞夕刊69・7・5	69・7
42	現代小説の再生は可能か	朝日ジャーナル69・7・27	69・7
43	中江兆民は奇人であったか－反逆の系譜 2－	図書	69・8
44	革命家の孤独－反逆の系譜 3－	図書	69・9
45	書評・パリの夜	朝日ジャーナル69・12・14	69・12
46	書評・平野謙『わが戦後文学史』『文学運動の流れの中から』『文芸時評』上下	文学38・2	70・2
47	『昭和史』のころ	現代の理論80	70・9
48	狂気が切り拓くもの	朝日ジャーナル71・1・1	71・1
49	古代史ブームとナショナリズム	新日本文学20・6	71・6
50	日本の道48・49坂本龍馬上下	読売新聞71・6・18, 19	71・6
51	日本の道50・勝海舟	読売新聞71・6・24	71・6
52	大逆事件の衝撃、ほか22項目	『近代日本思想史の基礎知識』有斐閣	71・7
53	ロシア革命と日本への影響（菊池昌典と対談）	季刊社会思想1・2	71・8
54	著者への手紙、真継伸彦『破局の予兆の前で』	現代の眼12・8	71・8
55	書評・栗原幸夫『プロレタリア文学とその時代』	新日本文学27・3	72・3
56	書評・越智治雄『明治大正の劇文学』	芸能史研究37	72・4
57	反戦・非戦の系譜	『日本人の百年 7 日露戦争』世界文化社	72・8
58	天皇制批判・文学における処方箋	玄海臨時号	72・10
59	新しい宣長像の発見	読売新聞72・10・19	72・10
60	平民社－武力なき志士の挫折	現代の眼14・2	73・2
61	書評・ロシア思想家とヨーロッパ	朝日ジャーナル73・4・20	73・4
62	書評・荒畑寒村『平民社時代』	エコノミスト73・10・2	73・10
63	書評・色川大吉『新編明治精神史』	エコノミスト74・1・29	74・1
64	書評・ドナルド・キーン『生きている日本人』	朝日ジャーナル74・2・8	74・2
65	書評・大佛次郎『大佛次郎随筆全集 3・冬の花』	朝日ジャーナル74・6・28	74・6
66	「世界文化」と「土曜日」復刻	朝日新聞75・5・19	75・5
67	河上肇研究の展望 1・2・3（出口勇蔵ほかと座談会）	復刻版『社会問題研究』月報10・11・12	75・8, 9, 10
68	『東雲新聞』と中江兆民－『東雲新聞』の復刻にあたって（河野健二・原田伴彦と座談会）		

人 文 学 報

	部落解放74	75・9
69 芥川龍之介	『近代文学・作家とその世界2』朝日新聞社	75・10
70 幸徳秋水ー日本社会主義の源流	『人物探訪日本の歴史18・明治の逸材』暁教育図書	75・11
71 近代史研究の手引き1〜6	歴史公論1〜6	75・12-76・5
72 恐怖に固執すること	毎日新聞夕刊76・1・19	76・1
73 京都の本25冊	週刊朝日76・4・5	76・4
74 一九三〇年代という時代（橋川文三ほかと座談会）	歴史公論6	76・5
75 書評・松本健一『竹内好論』	第三文明183	76・5
76 白樺派と現代	毎日新聞夕刊76・5・17	76・5
77 明治社会主義のなかの寒村翁	『荒畑寒村著作集1』月報 平凡社	76・6
78 近代文学史の構造をめぐるー小田切秀雄『現代文学史』上・下巻	文学44・11	76・11
79 硬質な叙情	『中野重治全集第16巻』月報9 筑摩書房	77・7
80 文明開化と近代化（小西四郎・前田愛と座談会）	歴史公論4・2	78・2
81 歴史と小説のあいだーいま一度本格論争をー	毎日新聞夕刊78・6・19	78・6
82 植木枝盛、大久保利通、奥村五百子、大佛次郎、今上天皇、幸徳秋水、河野広中、近藤勇、清水次郎長、大正天皇、田中正造、乃木希典、福沢諭吉、古河市兵衛、松平容保、森鷗外	『世界伝記大辞典』（日本・朝鮮・中国編）ほるぷ出版	78・7
83 ニヒリズムの終焉	朝日新聞夕刊78・7・3	78・7
84 「狂」の時代ー柴田練三郎私論ー	VOICE	78・12
85 書評・苦い真実、立花隆『日本共産党の研究』上下	エディター79・1	79・1
86 日本の近代と中国の近代（小島晋治・近藤秀樹と座談会）	歴史公論5・4	79・4
87 批評の受けつきかた	匙1	79・6
88 伝承・推論・史料ー国民文化の成立研究班	所報人文20	79・9
89 維新史のなかの坂本龍馬	歴史読本79・12	79・12
90 幕末の内乱と司馬遼太郎	カイエ2・12	79・12
	（再録、『司馬遼太郎の世界』朝日出版社、96・6）	
91 マイホーム論	歴史公論6・1	80・1
92 時代に生きた鷗外・漱石（小堀桂一郎・越智治雄と座談会）	歴史公論6・4	80・4
93 山間の青年たち	『明治大正図誌8中央道』筑摩書房	80・6
94 岩倉具視（明治を創った人々17）	維新の道18 霊山歴史館	80・6
95 龍馬をめぐる人々ー岩倉具視	プレジデント プレジデント社	80・7
96 国民文学論の影響下で	『竹内好全集3』月報7 筑摩書房	81・3
97 外国人の見た明治日本の再出発	歴史と地理307 山川出版社	81・3
98 孤高なる激情家・寒村翁	朝日新聞夕刊81・3・7	81・3
99 福沢諭吉とアメリカー「文明」をめぐるー	月刊歴史教育	82・11
100 文学のひろば	文学51・4	83・4
101 兆民・伝承と事実	『中江兆民全集7』月報6 岩波書店	84・4
102 猪名川の明治維新ー多田隊始末	いながわ町史3 兵庫県猪名川町	84・6
103 明治三十年代の都市・市民の新聞	『中公バックス日本の歴史22』付録	
	中央公論社	84・8
104 日本近代の「高音」部と「低音」部	『民友社思想文学叢書6』月報 三一書房	84・10

飛鳥井雅道 略歴・著作目録

105	社説の意味	世界468 岩波書店	84・11
106	すめろぎ変奏曲一・三島由紀夫と『英霊の声』	現代の理論211	85・3
107	国民文化と「愛媛」県の成立	愛媛新聞85・3・6	85・3
108	すめろぎ変奏曲二・三島由紀夫の『文化防衛論』	現代の理論212	85・4
109	すめろぎ変奏曲三・三島由紀夫の「武士道」とエロス	現代の理論213	85・5
110	すめろぎ変奏曲四・上田秋成「白峰」の亡霊	現代の理論214	85・6
111	すめろぎ変奏曲五・頼朝と後白河、そして『承久記』	現代の理論215	85・7
112	天皇の存在が強化されるときー明治大帝の奇跡は再び起こらない	エコノミスト85・8・27	85・8
113	思想の言葉	思想743	86・5
114	人間の顔をともなった変革ー龍馬、兆民、秋水	仿書月刊87・2	87・2
115	書評・亀井俊介『西洋が見えてきた頃』	不死鳥58 南雲堂	89・3
116	書評・鹿野政直『歴史のなかの個性たち』	北海道新聞89・5・15	89・5
117	前田愛さんの『八犬伝』	『前田愛著作集2』月報 筑摩書房	89・5
118	天皇制になぜこだわるか	現代の理論268	89・12
119	天皇ー公家的なものと武家的なもの	創造の世界74 小学館	90・5
120	シンポジウム近代日本の文化構造(梅原猛ほかと)	創造の世界74 小学館	90・5
121	解説・よみがえる明治の美	「よみがえる明治の美」展覧会図録 産経新聞社	90・8
122	人と人のつながり・関係	別冊歴史読本日本歴史「伝記」総覧 新人物往来社	90・10
123	ジャーナリズム精神の根元	二六新報復刻版パンフ 不二出版	92・5
124	龍馬・柔らかな精神	文 公文教育研究会	92・10
125	渡部先生の執念と実証	追憶・故渡部徹先生 偲ぶ会呼びかけ人	95・5
126	『注釈漂荒紀事』のこと	文学(季刊)7・4	96・10
127	私の三冊	図書臨時増刊571 岩波書店	96・12
128	創立のころ	京都教育大附属中学五〇年史 同刊行会	97・11